

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
共同研究会経費補助
2006 年度研究成果報告書

共同研究会名	グローバル消費文化研究会	
研究テーマ	グローバル化する消費社会の多様性とその社会的要因	
研究代表者	所属・職名	氏名
	社会学部・教授	間々田 孝夫 印
幹事	所属・職名	氏名
	社会学部・助手	水原 俊博 印
共同研究会 組織	所属大学名等・職名	氏名
	社会学研究科博士課程後 期課程 5 年	寺島 拓幸
	社会学研究科博士課程後 期課程 3 年	呉 金海
研究期間	2006 年度	
研究経費	2006 年度	
	200 千円	

研究会の概要及び研究会で行った研究成果の概要

<研究会の概要> (100~150 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

グローバル消費文化研究会は 2005 年に発足。同年、「国際化する消費生活」をテーマに量的調査を実施し、国際調査研究の準備を進めた。2006 年度は、おもに、想定される調査対象地域の現状把握、調査研究の方法論の検討、消費社会の社会的影響要因についての検討、そして、同調査と密接に関連する調査データ分析の 4 つを行った。

<研究成果の概要> (300~400 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

2006 年代の研究成果は以下のようなになる。

■ 著書

間々田孝夫, 2007, 『第三の消費文化論——モダンでもポストモダンでもなく』ミネルヴァ書房, 近刊.

■ 学会報告

寺島拓幸, 2006, 「消費生活のグローバル化と対外意識」第 54 回関東社会学会, 於: 慶応義塾大学 (2006 年 6 月).

———, 2006, 「外国人をめぐる意識と消費スタイル」第 79 回日本社会学会, 於: 立命館大学 (2006 年 10 月).

■ 論文

寺島拓幸・水原俊博, 2006, 「消費による差異化の実証分析」『経済社会学年報』28: 180-94.

呉金海, 2007, 「1980 年代の中国消費文化について——『人民日報』と『朝日新聞』を中心に」『応用社会学年報』49: 267-84.

間々田孝夫・寺島拓幸, 2007, 「グローバル化のなかの「和風」——変容する消費嗜好の実証分析」『応用社会学研究』49: 117-35.

水原俊博, 2007, 「バンコクの消費社会の現在——SC/M, MS の非参与観察調査報告」『社会学研究科年報』14: 21-30.

キーワード (研究内容をよく表しているものを 3 項目以内で記入。)

[グローバリゼーション] [消費社会] [多様性]

※ この (様式 2) に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書 (A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式) を添付すること。